

論文審査の要旨(甲)

申請者領域・分野 氏名	腫瘍制御科学領域 消化器外科学教育研究分野 氏名 赤石隆信
指導教授氏名	袴田 健一
論文審査担当者	主 査 櫻庭 裕丈 副 査 佐藤 温 副 査 水上 浩哉
(論文題目) Clinicopathological characteristics of mucin phenotype and its relation to the malignant potential in early differentiated gastric adenocarcinoma (早期分化型胃癌における粘液形質タイプ別の臨床病理学的特徴と悪性度との関連性)	
(論文審査の要旨) 本研究は、早期分化型胃癌における粘液形質と悪性度の関連性、特に粘膜層から粘膜下層へ浸潤する過程でおこる粘液形質の形質転換について着目した研究である。粘液形質は、腸型・胃型・混合型・その他 null 型に分類され、それぞれ多様な臨床病理学的特徴を有するが、悪性度に関連する脈管侵襲およびリンパ節転移との関連性はまだ一定の見解が得られていない。そこで分化型早期胃癌のなかでもさらに粘膜下層浸潤胃癌 (pT1b 症例) 症例を対象とし、粘膜層と粘膜下層の粘液形質と細胞接着因子である E-cadherin の発現率を評価し、胃癌の悪性度に与える影響について解析を行った。粘液形質の頻度は、粘膜内において腸型が 33 例、胃型が 12 例、混合型が 24 例、null 型が 13 例であった。一方、粘膜下層の粘液形質頻度は、null 型が 41 例 (50%) に増加しており、浸潤に伴い粘液形質が消失する症例が多数認められた。粘膜下層の粘液形質タイプ別にみると、腸型は Null 型に比較して有意に高い静脈侵襲の割合を示した。粘膜下層の粘液形質タイプ別に、粘液形質が消失しなかった群 (44%) に比し消失群 (75%) で、より多くの静脈浸潤が認められた。一方、分化型胃癌においては粘液形質別の浸潤に伴う E-カドヘリンの有意な変化は認められなかった。粘膜下層で腸型の表現型を示す早期分化型胃癌において、粘膜層からの形質の消失を伴う腫瘍は、他の粘液形質の腫瘍に比べ静脈侵襲の優位な増加が認められた。本研究は、早期分化型胃癌における悪性度について、癌の粘膜下層での粘液形質が腸型であること、さらに粘膜層から粘膜下層へ浸潤する過程での粘液形質の消失が関与していること解明したものであり、学位授与に値する。	
公表雑誌等名	European Journal of Inflammation, 2021;19:1-9